四日市市立保々小学校だより　　2015.6.16.（火）No.11

今を未来に

授業参観・学級懇談会への出席ありがとうございました。

先週１１日（木）の授業参観・学級懇談会に、たくさんの保護者の方にお越しいただくことができました。ありがとうございました。学級懇談会に高学年の保護者の方に残っていただく仕組みは課題と感じました。また、学級懇談会と同時刻に行っていました学校づくり協力者会議の委員さんから「今年は、子どもも落ち着いていたけど、保護者の方の参観の仕方もよかった。あまりおしゃべりをしている人はいなかった。」と教えていただきました。また、廊下から参観をされている方がみえて、「教室に入っていいのですか？」と委員さんが聞かれ、「教室の中に入って観てあげて。」と案内していただいたことも教えていただきました。「６年生は廊下の窓枠を外してあったので、参観がしやすかった。」とも聞きましたので、次回の参観の時の参考にさせていただきます。

学級懇談会で話題となったことは、学級だよりなどでお知らせするようにします。

学校づくり協力者会議開催される。

各学校の特色化を出していくために、また地域・保護者の方の想いを学校の教育活動に活かしながら開かれた学校づくりを進めるために、学校づくり協力者会議が開催されています。第１回の会議が、１１日（木）に行われました。

【本年度の委員さんは次の皆様です。】

天春文篤様（学校づくり協力者会議委員長、学校評議員
元民生委員・児童委員会長、学校ゲストティーチャー）
國保信二様（学校づくり協力者会議副委員長、民生委員・児童委員会長、学校評議員）
藤井幸恵様（主任児童委員、学校評議員）　**天春咲子様**（主任児童委員、学校評議員）
宇佐美仁様（地域マネージャー、学校評議員）
唯見飛鳥様（元ＰＴＡ副会長、保護者代表）**木村　綾様**（前ＰＴＡ会長、保護者代表）
市川千歳様（前ＰＴＡ副会長、保護者代表）**伊藤陽平様**（現ＰＴＡ会長、保護者代表）
佐藤孝之様（保々中学校長）

校長より、本年度の学校づくりビジョンと今の子どもたちの姿、本年度の活動予定と教育活動の変更点について、委員の皆様に説明・提案をして、ご意見をいただきました。次のようなご意見・感想がありました。（委＝委員の方から、学＝校長・教頭から）

○（委）秋に運動会が変更となったが、その分、高学年組立体操のピラミッドやタワーが巨大化するようなことはないか。安全面第一に考えて欲しい。

（学）本校の組立体操の大技は、一番下の児童に報道されているような負荷がかからないように配慮したものになっている。
（委）実際に腰を痛めているので、考えてほしい。
（学）５・６年生の学年には伝える。
（委）６年間の体力づくりが課題、組立体操だけのことではなく、体力づくりに向けて考えていく必要がある。そうしないと組立体操の技はどんどん落ちていく。

（学）体力づくりを考え、３０分休み、５分間運動、持久走などに取り組んでいる。また、子どもが偏った遊び、運動しかしていない傾向にあるので、３０分休みをうまく使えるように考えて行きたい。

（委）手伝いや勉強ばかり、ゲームばかりという子どもの生活背景がある。

（委）空き地や田（冬）で遊んでいると、今は本気で怒られる。子どもの遊び場がない。

（委）保々地区は昔、ため池で中学校の水泳指導を行っていた。今では考えられない。

⇒いろいろな遊び、運動を経験させるよう学校・家庭・地域が協力し、バランスのとれた体の成長を促す必要がある。

〇連絡表の基準が〇（できました）が７０%に変更とあるが、九九や漢字などは中学校にあがる時には、完璧にできるようにしてきてほしい。

⇒（学）小学校もそのように考えている。学習の基礎に当たる部分は、どの子もできるように考えている。(九九などでは教える順番を工夫する。のびっ子タイムの活用、基礎学力充実タイムの充実などで対応していく。)

〇最近、暴行を受けた後川に入らされて溺死したり、ペットボトルがマンションから落とされるなどの事件が続いている。命の大切さ、人の尊厳を十分に教えてほしい。

（学）落書きが校内外であったことは、学校だよりでも伝えている。内容に命に関わるようなことが含まれている。誰が傷つくのか、そこを学級で考えさせている。書かれた本人も、その家族も、おじいちゃんもおばあちゃんも、みんな悲しみ、傷つく、それが落書きなんだという事を、どの学級でも指導している。

（委）「うそつきは泥棒の始まり」「お天とう様がみている」という言葉が昔はあった。見つからなければいいということではない。でも、そんな風潮を世の中に作っているのは大人であり、それが子どもの文化に影響していることも考え直す必要がある。

〇緊急下校が先日の事件があった時のように中学生の集団下校と重なると、中学校の出口付近が非常に危険であった。導線を小中学校で検討して欲しい。

⇒（学）小中学校で検討し、別紙連絡のように相談をしました。ただ、どんな導線を作ってあっても、運動場内をかなりの速度で通過していく方、出口に我先に急ぐ方がみえる。まず運動場は最徐行することに協力をお願いしたい。

〇授業参観で、先生による違い（黒板の使い方、授業の進め方など）がよくわかった。

（学）今年の５年生の到達度検査の結果は全国平均を越えていた。この学年は３年生のはじめに受けた到達度検査の結果は全国平均を下回っていたので、この２年間の成果とも言える。特に昨年度、担任団がよく授業の進め方を相談していた。(課題設定、班で話し合う場面、授業の流れなど）学年で考え合うことが、学力向上につながるとも言える。もちろん、先生の個性もあり、そのため毎年学級編成を替え、担任もできる限り替わるようにしている。

（委）確かに４年生の時の授業で、３クラスとも観させていただいたが、どのクラスも同じ流れで同じ内容だった。板書の仕方も同じで、少し物足りなさを感じていたが、学年の先生が相談をして進めていることが大切なんだと、今の話でわかった。

〇（委）授業参観なのに、保護者の方が教室に入っていいのか悩んでいた。(低学年）

〇（委）６年生の廊下側の窓枠がはずしてあって、参観しやすかった。

〇（委）その為か、廊下に立っている保護者が静かでした。いつもは廊下でよくしゃべっていて、授業のじゃまになっていたが、今日はよかった。

第２回学校づくり協力者会議は、１０月１６日（金曜日）に開催されます。 学校づくり協力者会議委員の皆様、次回もよろしくお願いします。